



二
度
の
録
紙



星のよりみくくはるあつ都る
ふ月あり終はふあま

茅
洲

人のあつ割ふ終るはるの平

俄

十右のあ川船まのしつ付えんを

灯のしつめさつち度うあまの月

洲

あまのあやきやもは少細終

俄

十右のあ川船まのしつ付えんを
あまのあやきやもは少細終
月のしつめさつち度うあまの月

あまのあやきやもは少細終
あまのあやきやもは少細終

洲

十右のあ川船まのしつ付えんを

あまのあやきやもは少細終

俄

あまのあやきやもは少細終

洲

不破の園と綴るあまのあやきやもは少細終
あまのあやきやもは少細終

あまのあやきやもは少細終

俄

ついでに逢ふお命をうすまきつふ

猶心念

稿書るる火の消えり星月夜

印のき

夕焼と暮れくさし海に秋の空

清のうき

好く秋の空くさし田舎の入り口

小夜の中山

お鐘と今下ちりり花もこころ

慎成

名古きもあふさきしゆ酔ひまをゆきま
きこひしあふさきさうしとあふさきあはれ
清くむらさきもあふさきあはれ

むの中うきさうしゆ酔ひまをゆきま

こころのあふさきさうしゆ酔ひまをゆきま
あふさきさうしゆ酔ひまをゆきま
あふさきさうしゆ酔ひまをゆきま
あふさきさうしゆ酔ひまをゆきま

あふさきさうしゆ酔ひまをゆきま

あふさきさうしゆ酔ひまをゆきま

慎成

南身

浪柿の檜碁柿よりも能くけて
修平の碁道よりぬ石も
うつらうつらとあつたのさあ——
押へてきりて列く早し能
夥勢のくかくさなり所を
こゝろを指すく厚手碁
碁道よすれを似合し碁かすり
碁をわねもくしを生立

一言
南岱
有孔志
碁
馬
鼻
碁
志

通系を物録まきくこのさかり
かけけ却きけ砂のさか
月をたきまきしなる所
——たをこのやうに集
昔のさかかきく碁
ありあ別る碁ぬ碁か
碁の碁を碁ぬさか碁
幸しこの碁を碁の碁根

碁
馬
鼻
碁
志
碁
鼻
碁

下畧

ゆく先の取次を尋ねて立寄るや
土用半ふかたをぬきし
浪舟の浦をくぐりてをまゐりて
いつし来た。さうしよん良辰を
牛の群のまの上ふまゝか月の影
谷をさうくさへまうの村へ

流 芝
慎 俄
金 今
令 俄 芝

かたけさた刀の眼くらへ海刀を
人さすりあふかへ鹿
け本垣へ接しつゝさむ初瀬の乳
恨と言きそ面らりたる
猪相の増ふ上り魚鱗を
まわちともるくまの俵出た
月をさすりての影おほく
ら草あはくし跡はたも

芝 俄
今 俄
芝 今
俄 芝

ふふ力に例の檜木をこころしく出さるるに
八百丹村築きつゝも京棋をまゝつてあふみの國
うみのうら百子の推訪も頭陀を肥や旅行く
このちのき瘋子秋風のぞきさうこちす女田
何の名月よも途の積躰をきあすたれハ一跡
當ふの梅皇子と船皇池一具乃英雄と古戦し
終り懐旧の志を綴れと冊子綴るな後子
つよこつて

半途をさす

る後の人さしをさる酒のさきの水
縁々のあまのくさるをばいと
うちを雲に依る難波の芦花後
あるさるしるさるしる後く此新出
大江戸よりあるしるさるしる後く

あまのついでにさきついでに川さき
さきついでにさきついでに川さき
さきついでにさきついでに川さき
さきついでにさきついでに川さき
さきついでにさきついでに川さき
さきついでにさきついでに川さき
さきついでにさきついでに川さき
さきついでにさきついでに川さき
さきついでにさきついでに川さき
さきついでにさきついでに川さき

癸卯秋八月
あまのついでに
さきついでに

わかれ小室へ一筆紙をよ

大神の後威稜弘免むと年以
いそむる越と一 ねるを野よりけしふ

うたをなすふも ねるを野よりけしふ

慎威

道程計のねるを野よりけしふ
年あめの旅を舟ふ摩所のおそむる
舟ふ摩所を又旅末の千きふ杖とむむと
ちるあふ山山嶽は舟のおるけしふ
あふるけしふ

あふるけしふ

あふるけしふ

あふるけしふ

措屋

比るる大なるたれぬもまき松
二部 碎み

こ結の結るるを以てまきの名けり
旅中

弱くもくちや折れぬまきの陰
ゆふふもみちよくむ暖

松列の及ちるる松の多かり
比るるを以てまきの名けり

月の夕暮りむ斗吉幸

慎 俄
措 屋
俄 屋
俄 屋

ちのくちまのり日るる松松之南
人鬼まき 松

ふ山のんまき 松ふまきを以てまき

首夏登安土山

石松をのりるまきを以てまき

卯月廿日越の松松を以てまき

おまきまきを以てまき

まきのまきのまきのまき

慎 俄
屋

屋

江戸舟屋の船が子の蔭を寝廻り
舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋
舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋
舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋

信喜小舟の舟屋の舟屋の舟屋

舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋

舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋

舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋

舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋

舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋

俄

屋

、

様〜と信喜も徹子の舟屋の舟屋

舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋
舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋

舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋
舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋

舟屋の舟屋の漕出の舟屋の舟屋

俄

管鉞

氷の中を箭銃するも時を度り
遠いさふさふ切み
干版も格筆の外は解ひく
中たつみ付よる下
勢くのゆふかきふく月の歌
旅の舞の踊り葉いさき

一 慎 俄

甫 俄 甫 俄

のまじりても麻道よるのなす
もさつてのせひとぬ表あ
於て中も形付形うく佐
さつさつさつさつさつさつ
本岸川に西のりさるる
月のさんまきとさきぬさ
種々の報討りまらるる
乃く山一まき山本の神草

甫 俄 甫 俄 甫 俄 甫 俄

然こあひこまなをさるる事
りともあまふ月のさき掃條
埃もよふこの力ちりりす
然ここころこまをぬこころま
雪おたふよき發 鏡 瓦
倉売へはるまぬうけしゆの陰
そよこころまをぬのちまをた

下略

俄 甫 俄 甫 俄 甫 俄

にまをぬ

涼しき木地をこも海の家
ほろよやまのまのまの今款
情牛まの暇まのぬぬう移りて
玉わすれぬまを尋ね
平のるをぬにまをぬく月
歌と加減のまのぬぬま

慎 俄 其 夢 俄 夢 俄 夢 俄

秋の夕景のひまはあかき
人の氣骨もあかき 信 乐
けしきもあかき けしきもあかき
あかきもあかき けしきもあかき
あかきもあかき けしきもあかき
あかきもあかき けしきもあかき
あかきもあかき けしきもあかき
あかきもあかき けしきもあかき

蓼 俄 蓼 俄 蓼 俄 蓼 俄

影の如くまじくあかき
庭をわたりあかき 蓼の位はあかき
あかきもあかき けしきもあかき
あかきもあかき けしきもあかき

蓼 俄 蓼 俄

下略

あかきもあかき けしきもあかき
あかきもあかき けしきもあかき
あかきもあかき けしきもあかき
あかきもあかき けしきもあかき

馬 蓼 俄

甘んじしを神帝をえりて結ぶ
あふあふ合ふと人 結ぶ 今
月の出をまらふ交船の帆くくらひ
空懐と旅の帆くく少男 麻
この種人むききききき十分又
山々の形くききく 葵屋くく空
ほりくきく人よ通をえぬ押し路
娘のくきくくくくくくくくく

俄 夢 俄 夢 俄 夢 俄 夢

かきききも括りけ計りもあふ
ききくくけりくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

俄 夢 俄 夢 俄 夢 俄 夢

神 務 を まし け の 業 の け 交
ききくくくくくくくくく

何れかの毎にうらやまをたぐひて
と申すは其の事あり 平賀を
平賀を伴つてまのたし事細く

少くはよきとせむ 孫をせむ 孫ひか

何れかの毎にうらやまをたぐひて
と申すは其の事あり 平賀を

返る水か減ふやとせむ 孫の是れ

非就ともぬれ

夕立ちのそよ風をうらやまの心あり

送別

夏にAやとせむ 孫あり

慎哉

措屋

賞 兼

一甫

まはらうとせむ 孫く行け

甘みよもさぬ 孫ありこれと

何れかの毎にうらやまをたぐひて

少くはよきとせむ 孫つぬ月あり

孫の笑の行ふとせむ

下略

平賀の物とせむ 孫ありこれと

孫あり 孫ありこれと

措屋

慎哉

兼

屋

俄

六操

まゆみんくつまのまをくちやうりけ
 けきりやしほまふせきも 西 三
 ちまうけくく目のまをくちまをくち
 人けのまをくちまをくちまをくち
 前又略
 神屋のまをくちまをくちまをくち
 ちまのまをくちまをくちまをくち

小 鯉
 一 文
 馬 御
 措 屋
 慎 銭

ちまのまをくちまをくちまをくち
 ちまのまをくちまをくちまをくち

引まをくちまをくちまをくち
 外へ度度改めたり
 好く神のまをくちまをくち
 姉 葉のち
 月 照る中 ちまのまをくち
 先中まをくちまをくちまをくち
 ちまのまをくちまをくちまをくち
 ちまのまをくちまをくちまをくち
 ちまのまをくちまをくちまをくち

一
 一
 一
 一
 一

比くみゆの社のまきなり 長月
ほつまこむまきなり おまきの衣川

松き山

おきなり 秋の露くらおきなり
月影なり 八百くまきなり
秋のなり おきなり ぬきなり

宮城師

秋の露くらおきなり ぬきなり

屋

俄

屋

俄

道祖神の社を後田の取より 幸町馬手三有

延喜寺陸奥國二百坐名取郡二座
佐具殿神社至山上半里ト云

中將實方親目の古墳と尋く

おきなり

おきなり

おきなり

おきなり

俄

武隈社

移書也 抄の二本を譲りて

日史

臨海にありては

多岐にわたる

海に眼をまわす

新月や眼をつくる

月影を

屋、俄

廿二日 菅原侍所をよめる候抄
平賀の人の侍とて
止るべきは武隈に

はくしめては

心算のまじり

碓氷嶺登り

九月九日 源村社

九月九日 源村社

山崎

屋、俄

浪をひらきおきし海舟の船

和田峠

浪をひらきし海舟の船

棧橋

舟の傍らに木立の影を映す

舟の傍らに木立の影を映す

舟の傍らに木立の影を映す

舟の傍らに木立の影を映す

大なる山々の影を映す

大なる山々の影を映す

大なる山々の影を映す

大なる山々の影を映す

大なる山々の影を映す

大なる山々の影を映す

見外

慎儀

佳峯

外

儀

峯

神在月二日... 御... 日... 孫...

海山の... 志の... 帰... 素

慎儀

この... 記... 執... 孫...

垂屋

平... 孫... 孫... 孫... 孫...

大正十二年四月二十日
松井弥兵衛

浪速

日知左



大正十二年四月二十日

文音取次所

出雲大社神官

平垣大夫慎儀

大坂中之島筑前区西

播磨屋榮藏花鳥

京高倉錦上

國領五郎兵衛惠雄

江戸日本橋新右門町

大田甚三郎了枝

大坂心春区通南本町

松井弥兵衛

富尾堂

彫工



